かみのやま 歴史・文化財さんぽ

第３５号（令和３年２月）

須田板大壇の明応五年板碑
楢下下原の文明五年板碑
楢下元屋敷の天文十八年板碑

あゆむ「雪とコロナで、さんぽや訪問もむずかしくなってきたよな。」

ミドリ「こんな時こそ上山城ね！」

ふみお「郷土資料館だからね。たくさんの文化財や資料を収蔵していて、常設展示のほかに、企画展なども行っている。」

あゆむ「ところで、今日は何を見るの？」

文じい「今回は板碑じゃ。」

ミドリ「やった、板碑ね！ でも、お城の中に板碑なんてあったかしら？」

あゆむ「何度か来たけれど、大きなお相撲さんがいたことぐらいしか頭の中に残っていないな。」

ふみお「出羽ヶ嶽文次郎のことだね。板碑は、中世の時代のものが多いから、３階第２展示室だな。」

文じい「さあ、これだ。３基が展示されておる。」

ミドリ「３つもあったのね。あら？真ん中の板碑は前にどこかで見たことがあるわ。」

ふみお「あ、そうだ、確か山元の、えーと・・・。説明板がある。あの応長の板碑だ。」

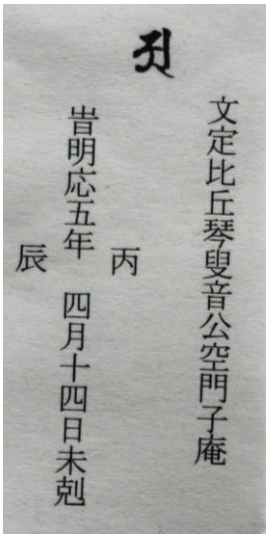
あゆむ「え、同じものが２つあるわけ？」

ふみお「いや、複製、真似て作ったレプリカだ。」

ミドリ「でも、左右の板碑は本物というわけね。」

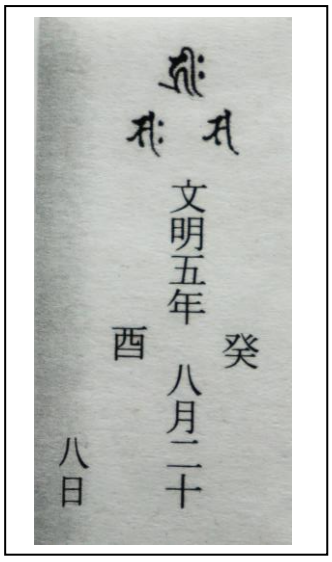
ふみお「右のは、須田板大壇の明応五年板碑。」

ミドリ「種子はアで、胎蔵界大日如来さまね。」



ふみお「室町時代中期の 1496 年だって。」

あゆむ「宮川小学校の西北方に大壇というところがあったんだね。」



ミドリ「左のは、楢下下原の文明五年板碑。」

ふみお「狐壇の西北方の道路そばにあり、文明５年は、1473 年で、これも室町時代中期だって。狐壇というのは？」

文じい「壇というのはちょっとした丘や土を盛った塚じゃな。いくつもの塚があり、それらをまとめて狐壇といっているようじゃが、狐が出入りしたという言い伝えなどもある。」

ミドリ「種子は阿弥陀三尊ね。それにしても、なぜその場所からこの城に移ったのかしら？」

文じい「上山城を建築する時に、持ち主から寄託していただいたようだ。」

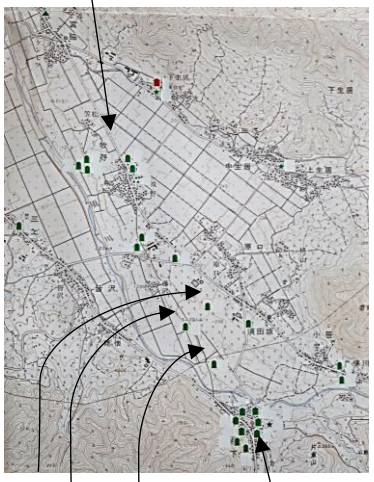
ふみお「もとのところとは、どこかな？」

文じい「それを調べるのにもう一つの板碑を見てみよう。写真で見てみよう。楢下元屋敷の天文十八年板碑じゃが、これこそ狐壇の上に建っておる。」

ミドリ「種子が５つもあるのね。」

文じい「バン(金剛界大日)、ウン(阿閦如来)、タラーク(宝生如来)、キリーク(阿弥陀如来)、アク(不空成就如来)の金剛五大尊じゃ。」

ミドリ「ところで、この３つの板碑はどのようなところにあったのかしら？」



文じい「ここに地図を持ってきた。」

ふみお「並んでいるね。ということは、ここで人がくらし、道も通っていたんだ。」

文じい「ふむ。元屋敷は寺屋敷とも呼んでいて、楢下の寺“浄休寺”がここにあって、楢下集落も寺を中心にあったらしい。」

ミドリ「なるほど。牧野から楢下につながって道や集落があった。そして、寺を中心にくらしていた人々が、あとから今のところに移ったというわけね。」

ふみお「そうだね。板碑からそういうこともわかる。やっぱりお城には時々来て、何かに集中して見るのがいいみたいだね。また来ようよ！」

発行：　上山市教育委員会生涯学習課文化財・文化芸術係　　電話　023-672-1111（内線 314）